

知床五湖の利用のあり方協議会（第33回）議事録

日時：平成27年3月12日（木） 13:30～15:30

場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

議題：

- (1) 平成27年度の知床五湖の利用に係る全体スケジュールについて
- (2) 平成26年度利用調整地区制度の運用結果について
- (3) 平成27年度ヒグマ活動期の運用方法について
- (4) 平成26年度登録試験結果、平成27年度登録引率者募集について
- (5) 指定認定機関の平成26年度収支報告、審査部会会計報告について
- (6) その他

資料：

- 資料1-1 平成27年度 知床五湖の利用に係る全体スケジュール
- 資料1-2 平成27年度 モニタリング実施計画（案）
- 資料2-1 平成26年度 知床五湖利用調整地区制度の運用総括
- 資料2-2 平成26年度 ヒグマ活動期運用結果について（詳細）
- 資料3 平成27年度 ヒグマ活動期の運用について
- 資料4-1 平成26年度 登録試験実施結果
- 資料4-2 平成27年度 登録引率者名簿（予定）
- 資料4-3 登録引率者の募集と養成研修のあり方について
- 資料5-1 平成26年度指定認定機関収支報告
- 資料5-2 平成26年度登録引率者審査部会会計報告
- 資料6 知床五湖におけるキャンペーン企画について

- 参考資料1 知床五湖駐車場計画図
- 参考資料2-1 知床五湖園地利用者数の推移（平成22～26年）
- 参考資料2-2 知床五湖地上遊歩道閉鎖状況一覧（平成16～26年）
- 参考資料3 平成27年度 ヒグマ活動期ツアースケジュール表
- 参考資料4-1 平成27年度 知床五湖登録引率者の新規養成募集要領
- 参考資料4-2 平成27年度 既存の知床五湖登録引率者研修カリキュラム
- 参考資料4-3 知床五湖登録引率者 養成・登録・更新の流れ

参考資料 4－4 平成 27 年度 知床五湖登録引率者新規養成募集強化チラシ

参考資料 5－1 第 32 回知床五湖の利用のあり方協議会議事録 (H26. 4)

参考資料 5－2 第 21 回知床五湖登録引率者審査部会議事概要 (H26. 11)

参考資料 5－3 第 22 回知床五湖登録引率者審査部会議事概要 (H27. 1)

【議事録】

環境省（中島）：年度末のご多忙中にも関わらず、参集いただき感謝申し上げます。昨年秋から実施している知床五湖の駐車場拡張工事のため、本年度は早期閉園となりご迷惑をおかけしました。拡張工事は順調に進んでおり渋滞の解消に貢献できると期待しています。知床五湖の運用は制度開始から 4 年目を終え、安定してきたと考えています。本日の会議は報告事項が中心となるが、忌憚なきご意見をいただきたい。

(1) 平成27年度の知床五湖の利用に係る全体スケジュールについて

資料 1－1 平成 27 年度 知床五湖の利用に係る全体スケジュール 説明

- ✓ 駐車場拡張工事に関して、ゴールデンウィーク後の閑散期に舗装工事を実施し、完成する予定である。完成予定図面については参考資料 1 を参照いただきたい。幅一列分が拡張され、台数にして 32 台増加する予定である。

資料 1－2 平成 27 年度 モニタリング実施計画（案） 説明

- ✓ 渋滞状況について、駐車場の拡張工事の影響を調べるため、3 年ぶりに渋滞状況調査を行う。慢性的な渋滞が解消できるのか効果検証をしていきたい。
- ✓ 利用者意識調査について、ヒグマ活動期のネットアンケートは引き続き行うが、その他の利用者アンケートについて平成 27 年度はいったん休止する。全体の計画を立て直し、28 年度以降に実施を検討する。

知床財団（寺山）：アンケートについてだが、資料 1－1 の「各種モニタリング」の行にある「ヒグマ期アンケート」や「植生保護期アンケート」というのは、従来から実施している調査票を用いた意識調査（以下、利用者アンケート調査）のことか。

環境省（松永）：今年に関しては、ツアー参加者を対象とした五湖ウェブサイトでのアンケート（以下、ネットアンケート）のことを想定している。

知床財団（寺山）：本年度に実施した利用者アンケート調査の結果は報告されているか。

環境省（松永）：今回の会議資料としては、取り上げていない。

知床財団（寺山）：利用者アンケート調査については、本年度の結果が概ね良好ということで来

年度は行わないということか。

環境省（松永）：昨年までは、運用実験の実施や制度改定等があり、その内容を評価するために利用者アンケート調査を続けてきた背景がある。平成 27 年度は、そういった特定のイベントは予定されていないため、一度整理をしたい。再実施にあたっては、これまで蓄積されてきたアンケートデータを精査・評価したい。年々増加している外国人利用者を対象にする案も考えられるが、その目的や結果のアウトプットを考えるためにも、平成 27 年度はいったん整理する期間としたい。

知床財団（寺山）：実際に運用は落ち着いてきており、来年は 5 年目となる。簡易な方法でもよいので利用者アンケート調査を続けるのが最善である。しかしながら、ネットアンケートで適切なデータを得られるのであればこちらを基本的に継続し、実験的なテーマを検証する際には、利用者アンケート調査を併用するという考え方でよい。

ウトロ地域協議会（桜井）：利用者の意識調査について、平成 27 年度はネットアンケートのみで現場での利用者アンケート調査は実施しないという理解でよいか。

環境省（松永）：予定はしていない。必然性のある調査項目や継続的な調査項目があれば別だが、これまでの調査結果においては、あまり経年的な変化が見られず、内容や頻度を見直す時期であると考ええる。

ウトロ地域協議会（桜井）：ネットアンケートの回答はどれくらいあるのか。

環境省（松永）：年間 100 件～200 件である。利用者の声を集約できるツールであることは間違いない。

知床財団（寺山）：ネットアンケートの対象は、ガイドツアー参加者に限定している。調査対象としては、少し範囲が狭いように思う。今後は一考の余地がある。

環境省（松永）：アンケート調査については、もし他にアイデアがあれば仕組みを構築したい。

（2）平成26年度利用調整地区制度の運用結果について

資料 2-1 平成 26 年度 知床五湖利用調整地区制度の運用総括 説明

- ✓ 26 年度は利用適正化計画の改定を行い、ヒグマ活動期においては小ループのガイドツアーを導入し、2 ルート併用で運用した。小ループツアーは、大ループツアーの補足的な位置づけとし、6 月と 7 月に 1 日 4 ツアーの限定で運用した。
- ✓ ヒグマ活動期は前年比 114%と増加したが、植生保護期（夏）は早期閉園の影響もあり前年比 89%と減少した。年間を通しての認定者数は前年比 95%の実績である。
- ✓ ヒグマ遭遇状況は例年並み。ヒグマ活動期のツアー中止回数も昨年度とほぼ同じである。
- ✓ 平成 26 年度からツアー参加者の属性を調べており、外国人や団体客のデータを集計している。ヒグマ活動期のツアー参加者に占める外国人の割合は、5 月は約 2 割、6、7 月について

は1割強である。

資料2-2 平成26年度 ヒグマ活動期運用結果について（詳細） 説明

- ✓ 増枠によって制度上の日最大利用者数も増加し、ツアー参加の機会が増えた。
- ✓ ツアー参加者数は過去最多となり、1万人を超えた。
- ✓ 小グループは当初の予想を上回る参加者数を得られた。利用者のニーズの受け皿となった。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : ガイドツアー参加者数は、五湖園地全体の入場者数に対する割合が重要と考える。単にツアーの参加者数の増減傾向だけでは充分ではない。

知床財団 (寺山) : 説明資料の内容は、利用調整地区の運用状況を説明したものであり、利用適正化計画改定等によるヒグマ活動期の変化を報告したものである。知床五湖園地全体の利用者数の推移に関しては参考資料2-1に示している。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : 制度運用前は、ヒグマによる地上遊歩道の終日閉鎖が頻繁に発生していたと記憶している。資料2-1の「遊歩道開閉状況」をみると、植生保護期（夏）の終日閉鎖日が2年連続0日となっている。これは、レクチャー等制度導入の効果が出ているということか。

環境省 (松永) : もともと植生保護期はヒグマが頻繁に出没する時期ではないという前提で設定している。また、制度導入によりヒグマ遭遇に伴う歩道の開閉判断のルールが確立し、終日閉鎖の日数が減少したという側面はある。

知床財団 (寺山) : ヒグマが出没した際、遊歩道をいったん閉鎖し、安全確認のための現地パトロールを実施する、という段取りは従来から変わっていない。しかし、再開の判断基準については変化している。制度導入以前は、レクチャーや情報提供の仕組みがなかったため、早急な解放判断は難しく、終日閉鎖も多かった。制度導入以降は、情報提供の機会が保障されているため、開放判断が早くなった傾向がある。クマの行動や生態が変わったというよりも、制度が整ったことにより開放判断が早くなったということである。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : レクチャーによる情報提供の効果と理解した。

環境省 (中島) : 空いている昼の時間帯のツアー参加者が増加しているということだが、それは昼の時間帯の上手な利用方法を地元の観光関係者が理解しており、その情報を利用者に伝えられているということか。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : 以前から昼の時間帯は空いていることが多く、そのことは伝えていく。

斜里バス (下山) : 五湖の混雑は、観光船の運航時間と連動している。観光船が戻ってくる時間帯は混み合うが、昼は比較的空いているという情報は日常的に説明している。

(3) 平成27年度ヒグマ活動期の運用方法について

資料3 平成27年度ヒグマ活動期の運用について 説明

- ✓ 平成27年度からの運用の変更点について説明。大ルートツアーは現行と変わらない運用。
- ✓ 小ルートツアーは、好評も得ていることから平成27年度は5月からの運用とする。出発時間についてはバスの到着時間等を考慮して現行から修正を加えた。出発時間は変則的になるが、引き続き1日4本の運用とする。
- ✓ 平成27年度はツアーの同時出発を可能とした。これに伴い最大利用人数は現行の396人から407人に増える。

参考資料3 平成27年度ヒグマ活動期ツアースケジュール表 説明

- ✓ 9時のツアーは大ルートと小ルートの同時出発である。
- ✓ 11時と13時30分発の小ルートツアーは、バスの到着時間と連動させている。

しれとこ・フォーラム 21 (小川)：小ルートツアーは、子ども連れや年配者からの評価が高い。地上遊歩道の散策という意味では大ルートと小ルートは等価であり、コースに関わらず希望する利用者には地上遊歩道を散策していただきたい。引率者の数や経営的な都合もあると思うが、小ルートのガイドツアーも大ルートと同じように取り扱うべきではないか。

環境省 (松永)：そういった声もあり、平成27年度は小ルートツアーを延長し、5月から実施する予定である。今回の資料にはないが、小ルートツアーの利用者アンケート調査結果からは、「次は大ルートを利用したい」との感想も多く、リピート利用にもつながるよい取り組みと感じている。一方、小ルートツアーの拡大は、短時間の通過型観光を進めてしまう懸念もある。ヒグマ活動期のガイドツアーについては、安全対策を整え、ゆっくり滞在していただける環境づくりを進めてきた。こうしたコンセプトも引き続き大事にしていきたい。

しれとこ・フォーラム 21 (小川)：観光客の中には制度を理解していない方も多い。地上遊歩道を散策したくても、事前予約による大ルートのガイドツアーには時間の制約や料金的な負担が大きい。小ルートツアーを大ルートツアーと同様の位置づけにする何か別のよい方法は無いのか。

知床財団 (寺山)：予約制や料金面における課題は以前から指摘されており、話し合いを続けてきた。しかし、大ルートツアーは認知度も上がりそれなりの評価を得ている。大ルートをブランド化して育てていくのか否かについては5年目を節目に考えるよい機会と考える。

知床斜里町観光協会 (代田)：「小ルートツアーと大ルートツアーを同等に位置づけるべき」という意見は、制度導入時の基本的な議論に立ち返るものだ。現在の制度は、大ルートでのガイドツアーを基本としており、一部のニーズに対応するために補助的に小ルートや当日受付を活用している。

知床財団（寺山）：利用者の多様なニーズに応え続けると、大ループツアーのブランドや価値までが揺らいでしまう。メインはやはり大ループツアーとする考えで継続している。しかし、こうした根本的な議論は続けていくべきである。

環境省（中島）：これは五湖だけでなく、ウトロや知床全体の将来にも繋がる話である。他に何かあれば。

知床斜里町観光協会（代田）：資料3における「2. 平成27年度の大ループ、小ループの設定」で平成27年度も小ループツアーは2湖展望台を使用せずとの注釈があるが、この決定の経緯について説明いただきたい。

環境省（松永）：ヒグマの安全対策上の理由に加え、ツアー時間の制約からこのような対応となった。また、登録引率者からも強い要望は出ていない。2湖を望む地点もツアーの行程中にあり、高架木道にもガイディング素材は多数あることから、2湖展望台へ行かずともツアーの質の充実をはかれると考えている。

しれとこ・フォーラム21（小川）：レクチャー等による情報提供が効果的に機能しており、以前と比較しても安全に散策できる環境が整いつつあるとの説明もあった。こうしたレクチャー等による安全対策が進んでいるのであれば、ヒグマ活動期の期間の見直しをするのはいかがか。

環境省（松永）：見直しは可能であるが、毎年変えることは出来ない。概ね3年ごとの利用適正化計画の見直しの際に検討することとなる。これはヒグマ活動期も含め、どの時期にどういった利用が望ましいのかという議論が必要となる。例えば開園直後の時期は例年積雪により小ループしか歩けない状態であり、利用者も多くない。むしろガイドの引率により、スノーシューで大ループを回るといった選択肢も考えられる。

知床斜里町観光協会（代田）：植生保護期のガイドツアー実績は出しているか。

知床財団（秋葉）：本日の資料には掲載していないが、予約システムには記録されているので分析は可能である。

知床斜里町観光協会（代田）：こうしたデータも利用してヒグマ活動期の期間設定について検討すべき。登録引率者の利益や安全性の観点からも影響が小さいのであればヒグマ活動期を短縮しても制度として維持できると考えられる。

しれとこ・フォーラム21（小川）：登録引率者の利益より利用者の利便性を考えてほしい。

知床斜里町観光協会（代田）：その両方を考えるということである。

（4）平成26年度登録試験結果、平成27年度登録引率者募集について

資料4-1 平成26年度登録試験実施結果 説明

✓ 既存の引率者は29名全員合格、新規養成者は2名が合格。1名が辞退。

- ✓ 平成 27 年度の登録引率者は 30 名の予定

参考資料 4-1 平成 27 年度 知床五湖登録引率者の新規養成募集要領 説明

資料 4-2 平成 27 年度 登録引率者名簿 (予定) 説明

資料 4-3 登録引率者の募集と養成研修のあり方について 説明

- ✓ 新規養成者は 3/20 より募集開始予定。
- ✓ 募集チラシ (参考資料 4-4) を作成。他地域への広報を強化する。
- ✓ 試験時の要件に普通救命救急講習の受講を加える。
- ✓ 既存引率者のスキルアップ研修は 27 年度も続ける (任意)。
- ✓ 制度導入 5 年間のヒグマ遭遇事例の取りまとめを予定。

(5) 指定認定機関の平成26年度収支報告、審査部会会計報告について

資料 5-1 平成 26 年度指定認定機関収支報告 説明

資料 5-2 平成 26 年度登録引率者審査部会会計報告 説明

- ✓ 昨年度より認定者数が微減したにもかかわらず、手数料収入が微増したのはヒグマ活動期
の手数料収入が増加したためである。
- ✓ 4 年間のデータより、ヒグマが出なければ認定者数が 7 万人弱で収支は黒字となるとわか
た。この結果は今後の戦略に役立てられると考える。

ウトロ地域協議会 (桜井) : 審査部会の会計について、平成 25 年度繰越金の内訳は。

知床財団 (寺山) : 利用適正化計画改定に先立って平成 25 年度に実施した増枠実験の手数料収
入である。

(6) その他

資料 6 知床五湖におけるキャンペーン企画について 説明

- ✓ 2014 年 知床五湖くまレク見てトクキャンペーンの実施結果報告。
- ✓ 2015 年 くまレクキャンペーンと知床五湖ローカル割引の実施計画について。

知床財団 (寺山) : 平成 27 年度のキャンペーン実施について承認をいただきたい。

一同 : 資料 6 承認

環境省 (中島) : 他に全体を通じて質問、意見等あればうかがいたい。

ウトロ地域協議会 (松本) : 今後の地上遊歩道の整備についての考えをうかがいたい。

北海道（梅島）：耐用年数も超過しており、整備が必要と認識している。平成 26 年度は工事予算を確保し、老朽化の激しい 6 箇所を修繕したが平成 27 年度については予定が立っていない。このままでよいとは考えておらず、可能な範囲で対処したい。

ウトロ地域協議会（松本）：ぬかるみや土壌の流出が懸念される場所もある。植生保護の面からも再整備の必要性を強く感じる。

公園財団（古坂）：資材の運搬等をボランティアでお願いしながら、現場でできる範囲については自主的に少しずつ修繕を進めたいと考えている。

ウトロ地域協議会（松本）：補修は計画的に実施する必要がある。高架木道の延長についても継続審議という扱いで止まっている。次期の整備計画について議論する場が必要と考える。

知床斜里町観光協会（代田）：先日、オホーツク総合振興局幹部との意見交換会の際も補修整備の要望は行ったが、予算確保の確約には至ってはいないが、前向きな回答はいただいている。

ウトロ地域協議会（松本）：環境省は遊歩道の整備について何かできないのか。

環境省（松永）：まずは管理者である北海道に方針を出していただく必要がある。

北海道（梅島）：遊歩道施設は道有財産であり、移管するにしてもいったん、設備の撤去が必要だが、現状では撤去費用の工面も難しい状況である。

ウトロ地域協議会（桜井）：平成 27 年度は遺産登録 10 周年である。イベントだけでなく、世界自然遺産の利用施設について、次の 10 年の計画等はないのか。

北海道（梅島）：節目の時期であり、来年度に向けての懸案事項として事務方として提案は続けている。

公園財団（青木）：昨年末、全国の自然公園財団支部長会議があったが、施設老朽化の問題は知床五湖だけではなく、全国同様に問題となっているようだ。一時的な補修ではなく、年次的な整備計画を立案するか、環境省に移管するかの決断が必要である。

ウトロ地域協議会（松本）：遺産登録 10 年を経て、利用者も行政予算も落ち込んでいく危機感がある。次の 10 年の計画がないと知床の存在感は相対的に落ち込んでいくのではないのか。

環境省（中島）：他の国立公園に比べると知床の予算は相当手厚い。また、平成 27 年度からは自治体による施設整備に対する交付金制度が復活する。道や町が整備に乗り出すのであれば、国からも最大 1/2 の事業費補助が可能となる。

しれとこ・フォーラム 21（小川）：もし老朽化した遊歩道で利用者がケガをすれば、その事故に対するの補償や歩道の閉鎖といった重大な影響が生じる可能性もある。緊張感を持った迅速な対策が必要である。

知床財団（寺山）：危機管理的な補修も必要だが、整備計画を考えるにあたっては、魅力を高める、投資的な観点も重要。例えば、2 湖の展望地付近は一方通行となっておらず、混雑発生やヒグマの安全対策上課題が多い場所である。整備の際には、展望地を分岐として新たなルートを作り遊歩道を付け替えることで問題が解決し、新たな魅力が付け加わるかもしれない。

付加価値を付ける観点から地域で議論が進めば、整備計画の有効性も高まる。

知床エコツーリズム推進協議会（上野）：制度が落ち着き、評価も安定してきている。しかしながら、利用者が支払った費用が施設整備に使われる状況には至っていない。制度を持続的に運用させるためにも将来への投資的な計画は必要である。こうした問題に対応する仕組み作りは、知床が先導して行うべき。法・技術的な難しさ、制度上の制約は理解するが、受益者による費用負担とその活用については、制度そのものを変える気概が必要。

環境省（中島）：法律上の仕組みとして、利用者が負担している認定手数料を積み立てたり、施設整備のために使用したりすることはできない。また、すべて国の制度のなかで運用しないといけないというわけでもない。地域が独自に工夫し、差別化・上積みすることも可能。

知床斜里町観光協会（代田）：地域として解決の方向性を見出すためにも、民間資金を投入するにしても、必要な費用を明確にする必要がある。遊歩道の管理を移管するにしても、既存の設備の撤去が必要とのことであった。北海道にはまず、撤去費用を明確にしていきたい。撤去費用の確保も難しいのであれば、簡易的な補修しか当面方法がないという結論になる。

北海道（梅島）：地上遊歩道の撤去費用は、ヘリコプター等の機械を使用すれば2千万円は下らない積算である。また、近年工事費用が高騰しており、予定価格では受託する業者がないという問題もある。羊蹄山の避難小屋の撤去工事も不落となり、工事が進んでいない。北海道全体としても五湖の工事費用まではなかなか予算が回らない状況である。

公園財団（青木）：単純に考えて、施設が老朽化し安全に歩けない状況である。国や道に要望を続けていくことが大切である。

知床財団（寺山）：制度に即した遊歩道整備のあり方についてアイデアを用意する必要がある。利用者の体験に付加価値をもたらし、また植生保護の面からも有効な整備案を地域として提案することができれば実現可能性はある。

ウトロ地域協議会（松本）：重要な議論であり、継続して議題として取り扱っていただきたい。

公園財団（青木）：議論に時間をかけず、早めに結論を出さなければならない。

環境省（中島）：以上、質問意見等なければ閉会としたい。ありがとうございました。

以上。